

# Hirata

The Global Production Engineering Company



## 2023年度 第2四半期

## 決算説明資料

2023年11月

平田機工株式会社(6258)

## I. 2023年度 第2四半期業績（連結）

- 業績概要
- 営業利益の増減要因分析
- セグメント別 受注高・売上高・受注残高
- セグメント別 受注高・売上高の詳細
- セグメント別 営業利益・営業利益率
- 主な外部環境影響への対応
- 貸借対照表

## II. 2023年度 通期業績見通し（連結）

- 通期業績予想
- 通期業績予想に対する上期進捗と下期見通し
- 1株当たり配当金・配当性向 推移および予想

## III. 中期経営計画（2022～2024年度）の 進捗報告

- 定量目標に対する振り返り
- 定性目標に対する振り返り

## IV. 参考資料

- セグメント別 売上高構成比推移
- セグメント別 四半期推移(受注高・売上高)
- 研究開発費・設備投資額・減価償却費
- CCC(キャッシュコンバージョンサイクル)の推移
- FCF(フリーキャッシュフロー)の推移
- 想定される主な外部環境への対応
- ESG経営の取り組み強化
- トピックス
- セグメント別 事業概要

※ 2023年度 第2四半期：2023年4月1日～2023年9月30日の期間

※ 2023年度 通期：2023年4月1日～2024年3月31日の期間

# I.2023年度 第2四半期業績（連結）

---



**Hirata**

# I. 2023年度 第2四半期業績（連結）

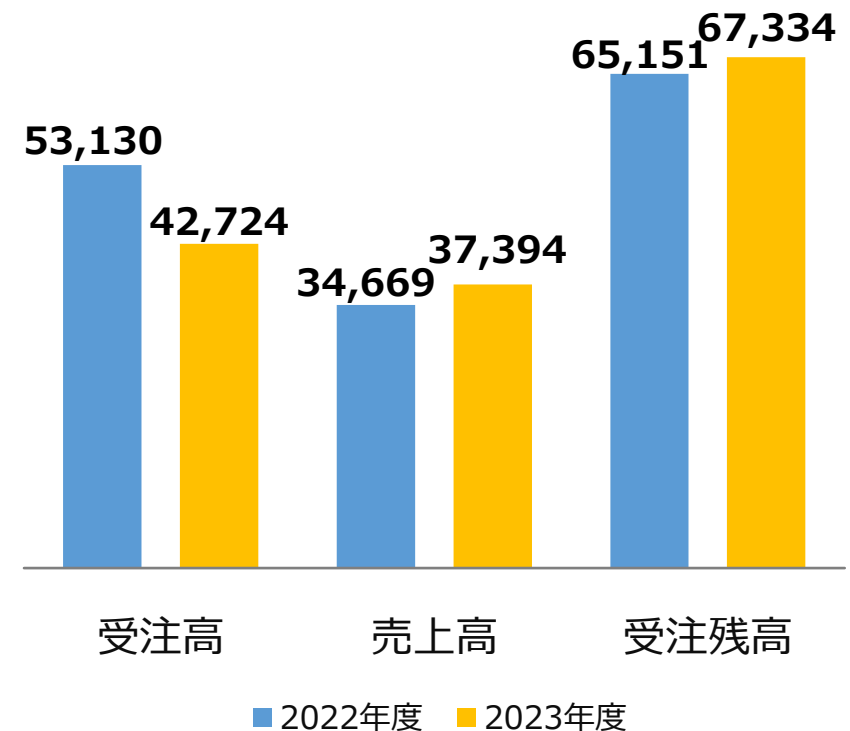
## 業績概要（第2四半期累計）

- **受注高**：半導体市場の在庫調整等の影響等で半導体関連の受注が減少し、対前年同期で減少
- **売上高**：EV関連で大型案件の売上が進み、対前年同期で**増収**
- **営業利益**：自動車・半導体関連の売上高増や原価率低減により、対前年同期で**増益**

（単位：百万円）

（単位：百万円）

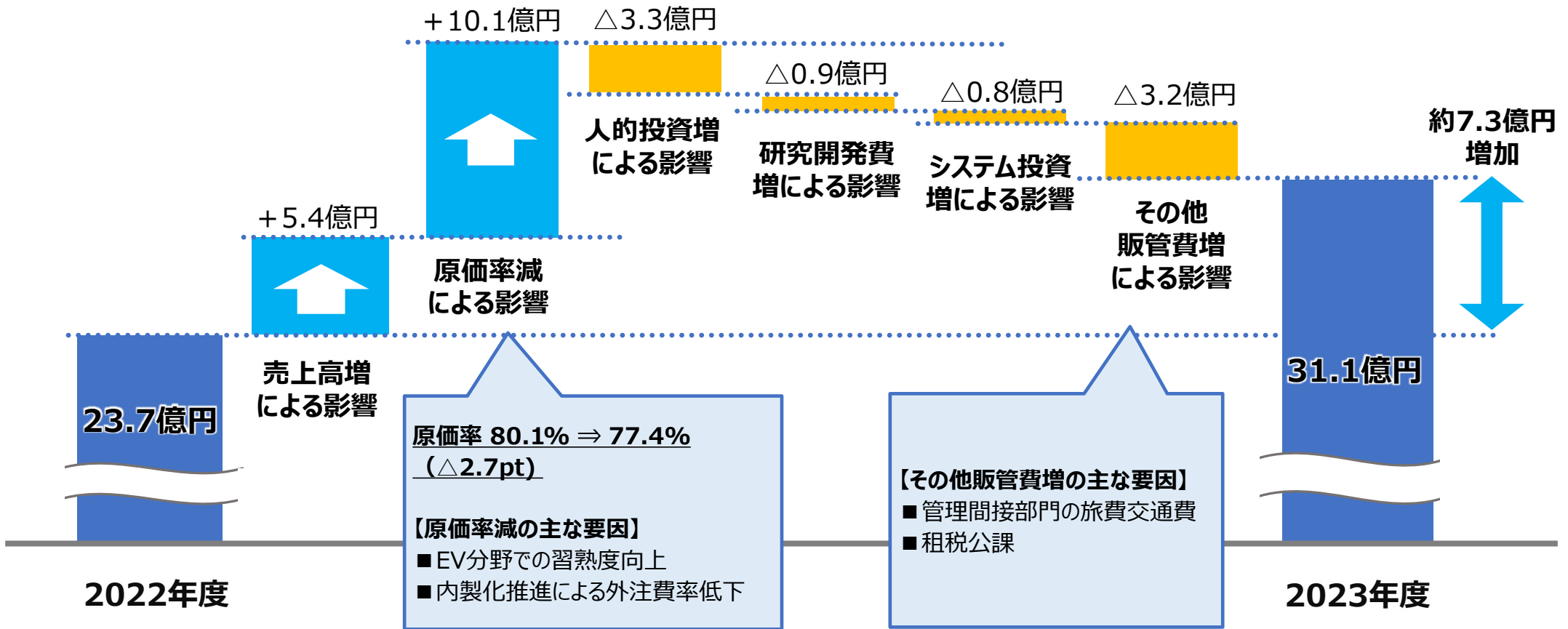
	2022年度 (Q2)	2023年度 (Q2)	対前年同期	
			増減額	増減率
受注高	53,130	<b>42,724</b>	△10,406	△19.6%
売上高	34,669	<b>37,394</b>	+2,725	+7.9%
営業利益 (利益率)	2,377 (6.9%)	<b>3,111</b> <b>(8.3%)</b>	+734 (+1.4pt)	+30.9%
経常利益	2,255	<b>3,281</b>	+1,025	+45.5%
親会社株主に 帰属する四半期純利益	1,743	<b>2,303</b>	+559	+32.1%
受注残高	65,151	<b>67,334</b>	+2,182	+3.3%



# I.2023年度 第2四半期業績（連結）

## 営業利益の増減要因分析（第2四半期累計）

**■ 営業利益は対前年同期で約7.3億円増**  
**【主な増加要因】 売上高増および原価率低減**  
**【主な減少要因】 販管費増加（給与改定・人員増、研究開発増等）**



# I.2023年度 第2四半期業績（連結）

## セグメント別 受注高・売上高・受注残高（第2四半期累計）

（単位：百万円）

	セグメント	2022年度	2023年度	対前年同期	
				増減額	増減率
受注高	自動車関連	18,598	<b>19,404</b>	+805	+4.3%
	半導体関連	20,325	<b>13,838</b>	△6,486	△31.9%
	その他自動省力機器	13,132	<b>8,091</b>	△5,040	△38.4%
	その他	1,074	<b>1,390</b>	+315	+29.3%
	合計	53,130	<b>42,724</b>	△10,406	△19.6%
売上高	自動車関連	13,330	<b>16,585</b>	+3,254	+24.4%
	半導体関連	12,797	<b>13,431</b>	+634	+5.0%
	その他自動省力機器	7,860	<b>6,268</b>	△1,591	△20.3%
	その他	680	<b>1,109</b>	+428	+63.0%
	合計	34,669	<b>37,394</b>	+2,725	+7.9%
受注残高	自動車関連	29,043	<b>34,460</b>	+5,417	+18.7%
	半導体関連	24,188	<b>22,160</b>	△2,027	△8.4%
	その他自動省力機器	11,122	<b>9,844</b>	△1,277	△11.5%
	その他	798	<b>869</b>	+70	+8.9%
	合計	65,151	<b>67,334</b>	+2,182	+3.3%

# I.2023年度 第2四半期業績（連結）

## セグメント別 受注高・売上高の詳細（第2四半期累計）

- **自動車関連**：脱炭素化に向けた自動車の電動化の高まりを背景にEV関連の受注が引き続き堅調に推移し、受注高・売上高ともに対前年同期で増加
- **半導体関連**：半導体市場の在庫調整等の影響により受注高は対前年同期で減少。ウェーハ搬送関連案件で受注済み案件の生産が進み売上高が増加し、全体の売上高も対前年同期で増加

（単位：百万円）

			2022年度		2023年度		対前年同期	
			実績	セグメント内 構成比	実績	セグメント内 構成比	増減額	増減率
受注高	自動車 関連	<b>EV</b>	15,295	82.2%	<b>15,606</b>	<b>80.4%</b>	+311	+2.0%
		その他	3,302	17.8%	3,797	19.6%	+494	+15.0%
	半導体 関連	<b>ウェーハ搬送</b>	10,552	51.9%	<b>8,668</b>	<b>62.6%</b>	△1,883	△17.9%
		その他	9,772	48.1%	5,169	37.4%	△4,602	△47.1%
	その他 自動省力 機器	<b>有機EL</b>	2,649	20.2%	<b>2,242</b>	<b>27.7%</b>	△407	△15.4%
		その他	10,482	79.8%	5,849	72.3%	△4,632	△44.2%

売上高	自動車 関連	<b>EV</b>	7,883	59.1%	<b>12,869</b>	<b>77.6%</b>	+4,986	+63.2%
		その他	5,447	40.9%	3,716	22.4%	△1,731	△31.8%
	半導体 関連	<b>ウェーハ搬送</b>	6,751	52.8%	<b>7,857</b>	<b>58.5%</b>	+1,105	+16.4%
		その他	6,045	47.2%	5,574	41.5%	△471	△7.8%
	その他 自動省力 機器	<b>有機EL</b>	1,661	21.1%	<b>1,039</b>	<b>16.6%</b>	△621	△37.4%
		その他	6,198	78.9%	5,228	83.4%	△969	△15.6%

# I.2023年度 第2四半期業績（連結）

## セグメント別 営業利益・営業利益率（第2四半期累計）

- **自動車関連**：EV関連の売上高増や習熟度向上による原価率低減により利益率改善
- **半導体関連**：比較的利益率が高いウェーハ搬送関連の売上構成比増により利益率改善

※いずれもQ2までの累計比較

（単位：百万円）

	自動車関連		半導体関連		その他自動車省力機器		その他		連結消去		合計	
	2022年度	2023年度	2022年度	2023年度	2022年度	2023年度	2022年度	2023年度	2022年度	2023年度	2022年度	2023年度
売上高	13,330	<b>16,585</b>	12,797	<b>13,431</b>	7,860	<b>6,268</b>	681	<b>1,109</b>	△0	△0	34,669	<b>37,394</b>
営業利益	486	<b>1,014</b>	1,433	<b>2,240</b>	464	△106	△9	△38	2	2	2,377	<b>3,111</b>
営業利益率	3.6%	<b>6.1%</b>	11.2%	<b>16.7%</b>	5.9%	△1.7%	△1.5%	△3.5%	-	-	6.9%	<b>8.3%</b>

## 主な外部環境影響への対応

（下記以外の外部環境への対応についてはp27に記載しております）

主な外部環境	事業への影響	主な対応策
原材料・部材価格の高騰 部材の供給不足	<p><b>【マイナス影響】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部材価格は依然高止まり</li> <li>・調達リードタイムはピークを過ぎ徐々に改善傾向</li> </ul>	<p><b>【マイナス影響】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部材の先行手配・標準化の推進</li> <li>・価格改定・見積反映</li> <li>・グローバルでの新規調達先開拓</li> <li>・設計変更</li> </ul> <p><b>【プラス影響】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外案件の積極的な受注拡大</li> </ul>
為替	<p><b>【プラス影響】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・円安による海外競合との相対的な価格競争力増</li> </ul> <p><b>【マイナス影響】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・円安による海外調達品(原材料・部材)の調達コスト増</li> </ul>	



# I.2023年度 第2四半期業績（連結）

## 貸借対照表

（単位：百万円）

資産	2022年度	2023年度 Q2	増 減
流動資産	79,655	<b>82,725</b>	<b>+3,070</b>
現金及び預金	11,134	10,461	△673
売上債権等	51,435	55,536	+4,100
棚卸資産	14,219	14,464	+245
その他	2,865	2,263	△602
固定資産	34,867	<b>38,028</b>	<b>+3,161</b>
有形固定資産	24,302	26,040	+1,738
無形固定資産	749	839	+89
投資その他の資産	9,815	11,148	+1,333
資産合計	114,522	<b>120,754</b>	<b>+6,231</b>

負債	2022年度	2023年度 Q2	増 減
流動負債	43,193	<b>44,882</b>	<b>+1,689</b>
固定負債	11,754	<b>14,133</b>	<b>+2,379</b>
負債合計	54,947	<b>59,015</b>	<b>+4,068</b>

純資産	2022年度	2023年度 Q2	増 減
純資産合計	59,575	<b>61,738</b>	<b>+2,163</b>

### <主な増減要因>

- **売上債権等**：売上高の増加による
- **有形固定資産**：関西工場完成、研究開発用装置導入による
- **投資その他の資産**：保有株式の株価上昇での評価替えによる
- **流動負債・固定負債**：生産のための資金需要による

## Ⅱ.2023年度 通期業績見通し（連結）

---



**Hirata**

## 通期業績予想

2023年5月12日に発表した通期業績予想に変更はございません。

**売上高 900億円、営業利益 54億円で増収減益見通し**

(単位：百万円)

	2022年度 実績		① 2023年度 通期予想		対前期		② 2023年度 上期実績	①-② 通期業績予想と 上期実績の差異
					増減額	増減率		
<b>売上高</b>	78,443	-	<b>90,000</b>	-	<b>+11,556</b>	<b>+14.7%</b>	<b>37,394</b>	<b>52,606</b>
自動車関連	30,298	-	38,000	-	+7,701	+25.4%	16,585	21,415
半導体関連	28,954	-	31,000	-	+2,045	+7.1%	13,431	17,569
その他自動省力機器	16,952	-	18,000	-	+1,047	+6.2%	6,268	11,732
その他	2,238	-	3,000	-	+761	+34.0%	1,109	1,891
<b>営業利益（率）</b>	5,920	(7.5%)	<b>5,400</b>	<b>(6.0%)</b>	<b>△520</b>	<b>△8.8%</b>	<b>3,111</b>	<b>2,289</b>
<b>経常利益（率）</b>	5,802	(7.4%)	<b>5,500</b>	<b>(6.1%)</b>	<b>△302</b>	<b>△5.2%</b>	<b>3,281</b>	<b>2,219</b>
<b>親会社株主に帰属する 当期純利益（率）</b>	4,269	(5.4%)	<b>3,900</b>	<b>(4.3%)</b>	<b>△369</b>	<b>△8.7%</b>	<b>2,303</b>	<b>1,597</b>

## 通期業績予想に対する上期進捗と下期見通し（売上高）

上期は一部案件で顧客都合の生産遅延や案件キャンセル等が発生し進捗率は低いものの、下期は遅延している案件での巻き返しや新規案件受注による売上高増を見込む

### <通期業績予想の上期進捗>

（単位：百万円）

	通期予想	上期実績	進捗率
売上高	90,000	37,394	41.5%

### <セグメントごとの上期進捗と下期見通し>

（単位：百万円）

セグメント	通期予想	上期			下期見通し
		実績	進捗率	主な要因	
自動車関連	38,000	16,585	43.6%	・バッテリー案件で顧客の受け入れ都合による生産遅延	・後ろ倒しとなった案件の生産を下期に巻き返すことで売上増を見込む
半導体関連	31,000	13,431	43.3%	・ウェーハ搬送装置以外の分野で顧客の計画延期や案件キャンセル等が発生	・新規案件受注による売上増を見込む
その他 自動省力機器	18,000	6,268	34.8%	・子会社において家電メーカーからの受注済み案件で顧客の開発遅れによる計画遅延	・Q2に受注した有機EL関連の生産を進めることで売上増を見込む

## 通期業績予想に対する上期進捗と下期見通し（営業利益）

- 人的投資は賃金改定・人材採用等がおおむね計画通りに進捗し、下期も期初計画での推移を見込む
- 研究開発費、システム投資については下期の費用増加を見込む

### <通期業績予想の上期進捗>

（単位：百万円）

	通期予想	上半期実績	進捗率
営業利益	5,400	3,111	57.6%

### <主な損益影響要因の上期進捗と下期見通し>

（単位：百万円）

主な損益影響要因	通期影響額 期初計画	上期進捗 （営業利益への影響額についてはp5に記載しております）	下期見通し
①人的投資	6.2億円	・2022年度を上回る率での賃金改定を実施 ・新卒・キャリア採用が計画通り進捗	・通期で80名のキャリア採用に向けて下期も計画通りの推移を見込む
②研究開発投資	6.3億円	・植物遺伝資源研究施設への装置導入が進捗するも、契約相手国（インドネシア・アルゼンチン）要因による遅延で一部費用未消化	・上期遅延分は下期に消化を予定しており下期の費用増加を見込む
③システム投資	3.0億円	・ERPとPLMの導入プロジェクトが進捗、発生費用ともに計画通り推進中	・下期も計画通り、ERPとPLMの導入プロジェクトを推進するため費用増加を見込む

※ERP：統合基幹業務システム。会計・販売・在庫管理・生産管理等を統合的に管理

※PLM：プロダクト・ライフサイクル・マネジメントシステム。生産活動に伴う、製品の設計・調達・製造・販売・保守などの情報を一元的に管理

## Ⅱ.2023年度 通期業績見通し（連結）

### 1株当たり配当金・配当性向 推移および予想

2023年5月12日に発表した配当予想に変更はございません。

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度 予想
1株当たり配当金（円）	125.00	40.00	65.00	65.00	<b>90.00</b>	<b>90.00</b>
配当性向（％）	28.4	23.8	16.6	25.2	<b>21.9</b>	<b>24.0</b>

※配当性向は連結ベースです。

### 配当予想について

当社は、株主に対する利益還元を経営上の最重要課題の一つと考え、財務体質の強化を図りつつ、連結業績や今後の事業展開などを勘案しながら、連結配当性向20%以上を概ねの目安とし、安定的・継続的に行うよう努めております。

2023年度の配当につきましては、期末配当として90円を予定しております。

## Ⅲ.中期経営計画(2022~2024年度)の進捗報告

---



**Hirata**

# Ⅲ.中期経営計画（2022～2024年度）に対する進捗報告

## 【定量目標に対する振り返り】売上高・営業利益・設備投資

(単位：億円)

	セグメント	中計最終年目標 (2024年度)		1年目実績 (2022年度)		2年目予想 (2023年度)		2年目実績 (Q2までの累計)		進捗
売上高	自動車関連	400		302		380		165		○：大型受注進む
	半導体関連	400		289		310		134		△：先端半導体で一時減少
	その他自動省力機器・ その他	200		191		210		73		△：有機ELで受注時期の遅れ
	合計	1,000		784		900		373		△：売上時期の遅れ
営業利益 (利益率)	自動車関連	20	(5%)	15.5	(5.1%)	-	-	10.1	(6.1%)	○：EVで価格転嫁進む
	半導体関連	60	(15%)	34.4	(11.9%)	-	-	22.4	(16.7%)	○：ウエーハ関連受注増
	その他自動省力機器・ その他	20	(10%)	9.1	(4.7%)	-	-	△1.4	(△1.9%)	×：特定案件（物流等）で 収益性が悪化
	合計	100	(10%)	59.2	(7.5%)	54	(6.0%)	31.1	(8.3%)	○：自動車・半導体の利益率 改善が寄与
※2023年度予想のセグメント別営業利益は非開示										
設備投資 累計額 (進捗率)	生産・開発能力増強	60		21.6	(36.0%)	57.8	(96.3%)	35.8	(59.6%)	○：工場の能力増強が進む
	植物遺伝資源研究開発	40		0.8	(2.0%)	14.5	(36.2%)	11.0	(27.5%)	△：事業可能性の検証段階
	情報システム関連	10		4.6	(46.0%)	6.0	(60.0%)	6.1	(61.0%)	○：基幹システムの導入進む
	合計	110		27.0	(24.5%)	78.4	(71.1%)	53.0	(48.1%)	○：着実な投資実施進む



## 【定性目標に対する振り返り】 基本方針(1) 成長市場でのビジネス拡大

### 自動車関連における収益性強化の取り組み

#### <バッテリー分野におけるキーデバイス開発>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">計画</p>	<p>充放電機</p> 	<p>自動倉庫(改良)</p> 	<p>デュアルヘッドワイヤー ボンディングマシン</p> 	<p>AGV(改良)</p> 	<p>プラントシミュレーション (ソフト)</p> 
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">実績</p>	<p style="text-align: center;">↓</p> <p><b>戦略変更</b> (内製化から 外部調達へ切替え)</p>	<p style="text-align: center;"><b>開発完了</b> (対応工程拡大により、受注・引合が拡大傾向)</p>			

## 【定性目標に対する振り返り】 基本方針(2) グローバル企業としての競争力強化

### 半導体関連において現地生産拡大の取り組み

#### <日本、台湾で生産可能な製品>



#### <中国（上海）、東南アジアに拡大>



- **現地生産拡大**：海外関係会社との関係を強化し、半導体関連の現地生産を拡大
  - ・台湾に加えて、中国（上海）、東南アジア（マレーシア、シンガポール）でも生産・販売ができる体制構築
  - ・中国（上海）の子会社Hirata Automated Machinery (Shanghai) Co.,Ltd.と日本（当社）との間でロードポートの技術ライセンス契約を締結。中国向けで現地生産を拡大
  - ・部材の現地調達を進め、日本からの輸送コスト削減、リードタイム短縮、貿易リスク回避

※ EFEM(Equipment Front End Module)：ウェーハおよびパネルの処理を行うプロセス装置の前面にあり、クリーンな環境で容器とプロセス装置間においてウェーハおよびパネルの受け渡しを行う装置  
 ※ ロードポート(Load Port)：半導体製造装置間でウェーハを搬送する際に、収納容器内のウェーハを半導体製造装置に出し入れを行う装置

## 【定性目標に対する振り返り】 基本方針(1) 成長市場でのビジネス拡大

### 植物遺伝資源研究への取り組み

#### ■ 2024年度からの研究開発開始に向けた条件整備が進む：

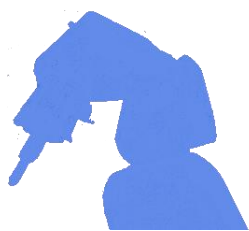
- ・ アルゼンチンとの植物遺伝資源の探索利用のための共同研究開発に基づき、アルゼンチン リオネグロ州の植物について、生物多様性条約の名古屋議定書にもとづく「国際遵守証明書」(IRCC : Internationally Recognized Certificate of Compliance※) を取得
- ・ 上記証明書取得により、アルゼンチンのリオネグロ州において次の活動が可能となった
  - ① 研究対象を特定の植物に限定しない地域内の植物遺伝資源へのアプローチ
  - ② 提供国と利用国・利用企業との仲介役として、研究素材の提供や原料の販売
- ・ 本社/熊本工場内のラボで主要機材の導入が進む  
2024年度内に機材のオペレーティング習熟を目指す

※ IRCC : 国際的に正式な手続きに則って遺伝資源が取得されたことを証明する国際遵守証明書

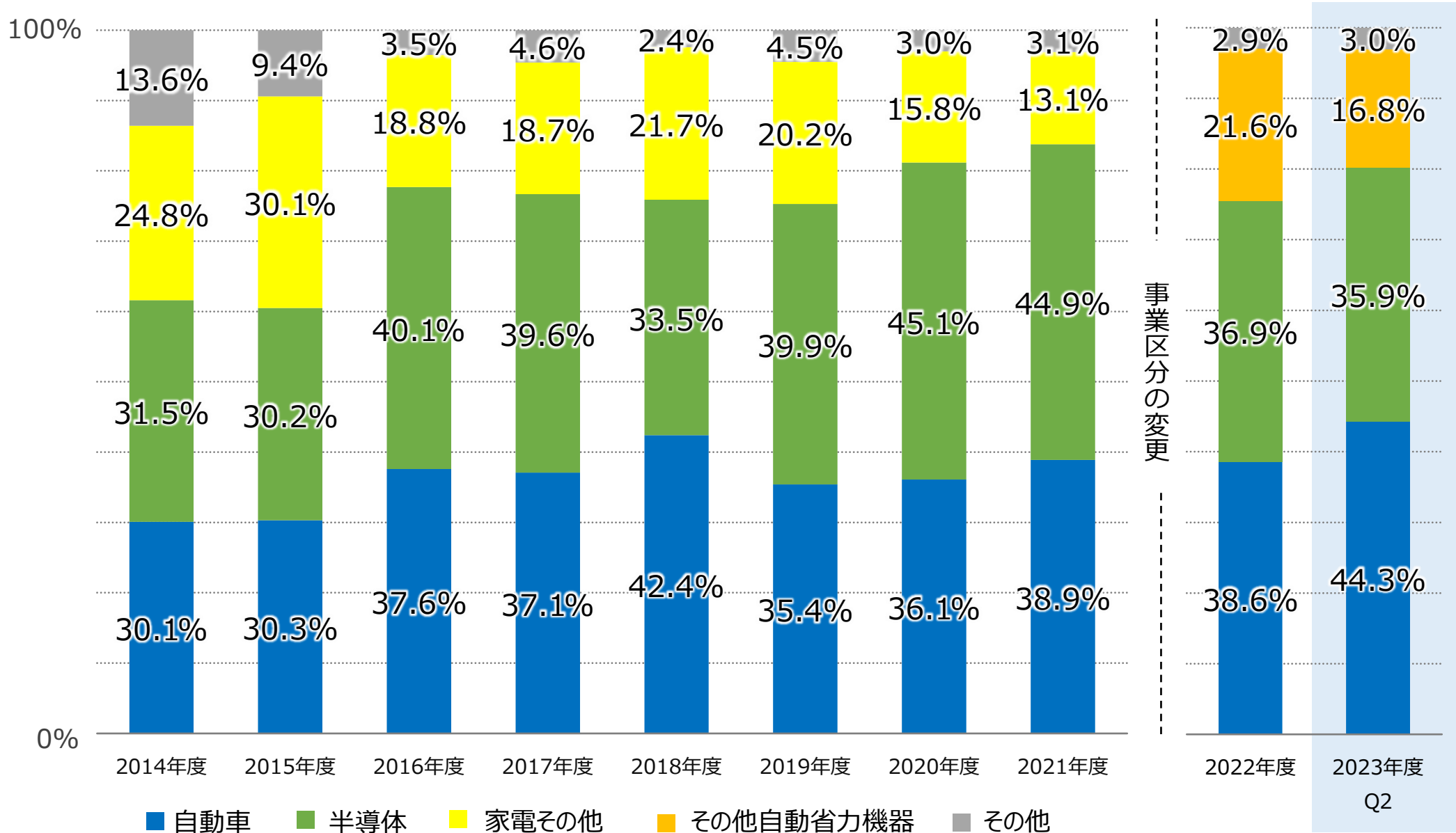


## IV. 參考資料

---



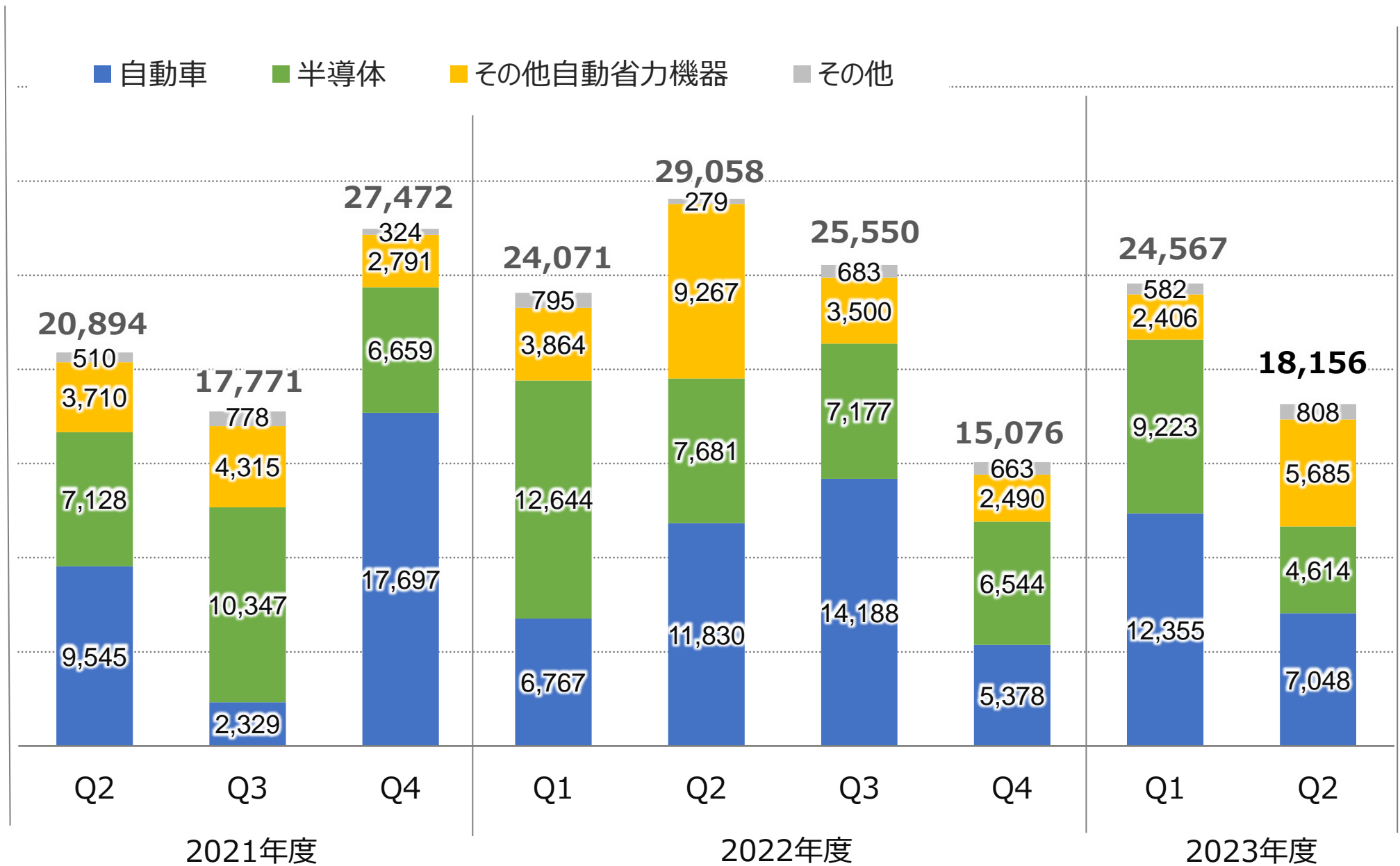
## セグメント別 売上高構成比推移



※2022年度より、事業区分の変更を行っております。

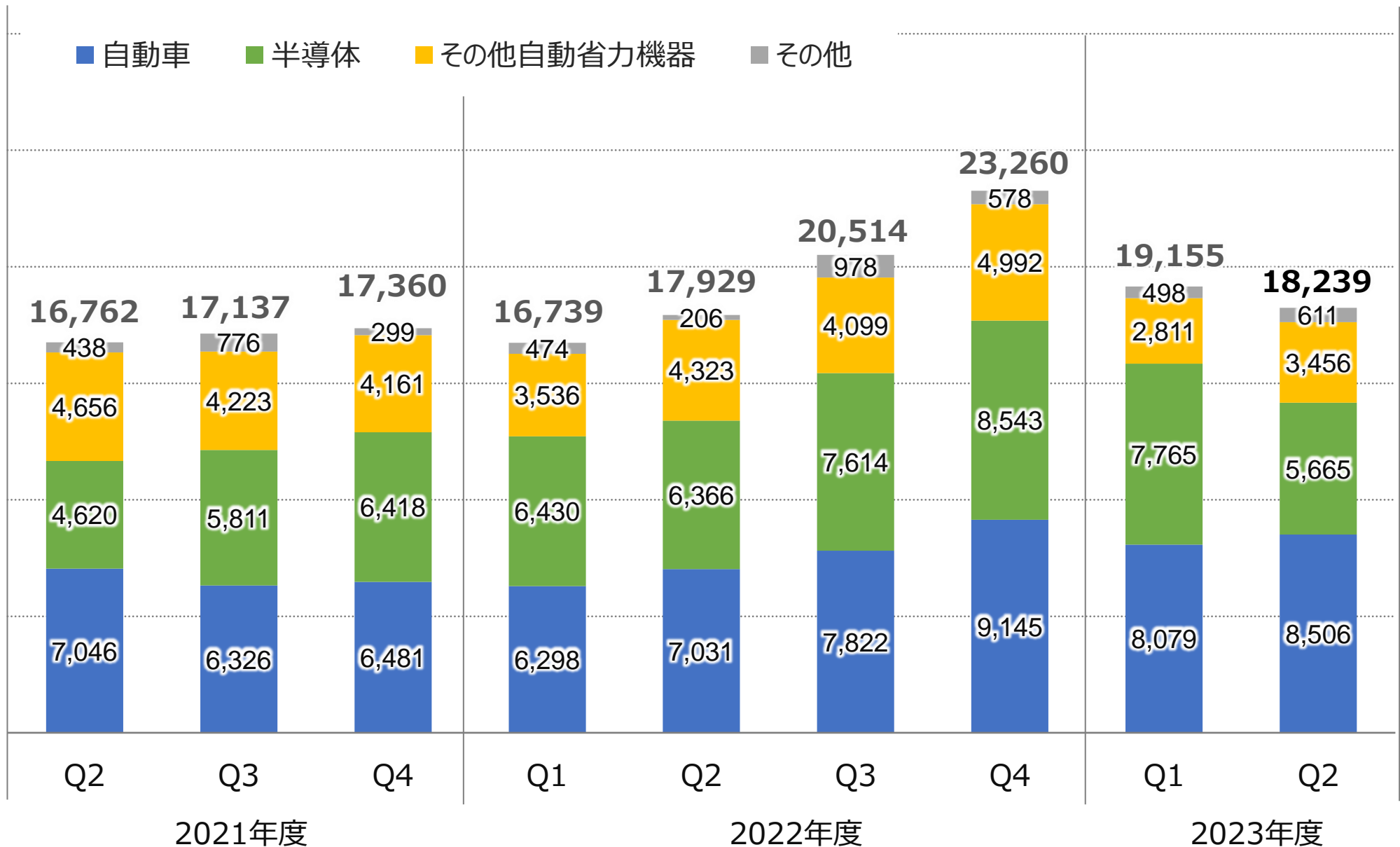
## セグメント別 四半期推移 (受注高)

(単位：百万円)



## セグメント別 四半期推移 (売上高)

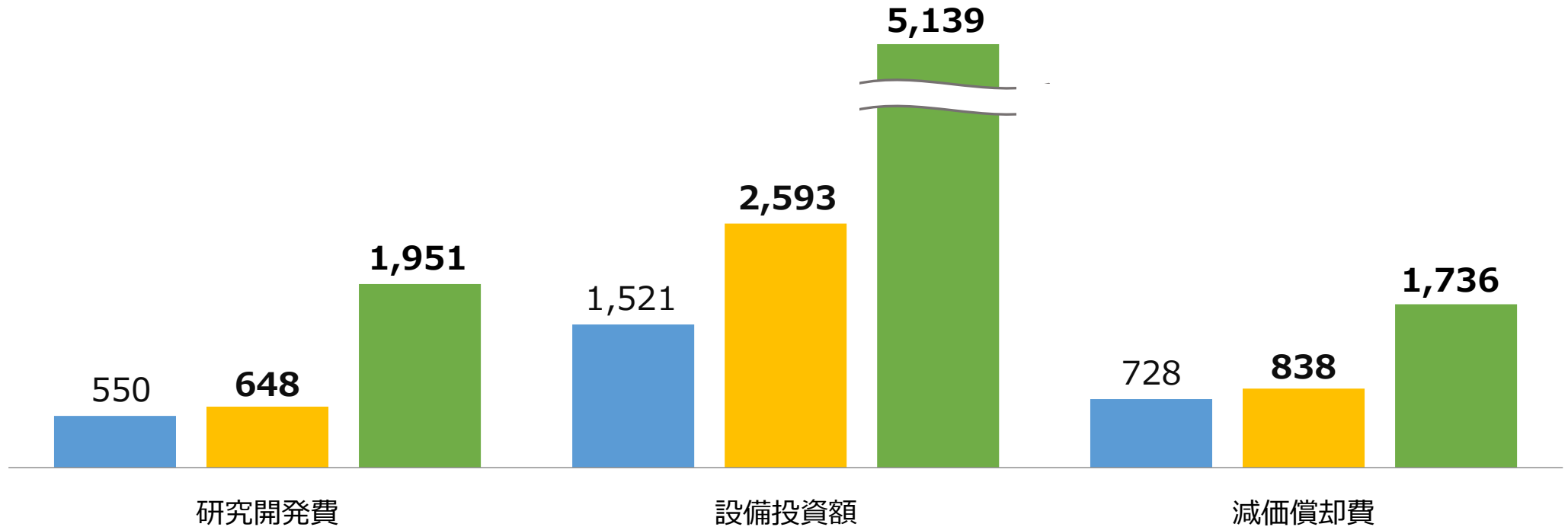
(単位：百万円)



## 研究開発費・設備投資額・減価償却費（第2四半期累計）

■ 2022年度 ■ 2023年度 ■ 2023年度通期計画

（単位：百万円）



主な投資内容		2023年度 投資計画	2023年度 投資実績
研究開発費	既存事業における次世代製品開発	約 13.8億円	約 4.7億円
	植物遺伝資源研究	約 5.6億円	約 1.7億円
設備投資	生産能力の増強・生産性向上	約 24.3億円	約 14.2億円
	研究開発設備関連	約 13.7億円	約 10.1億円

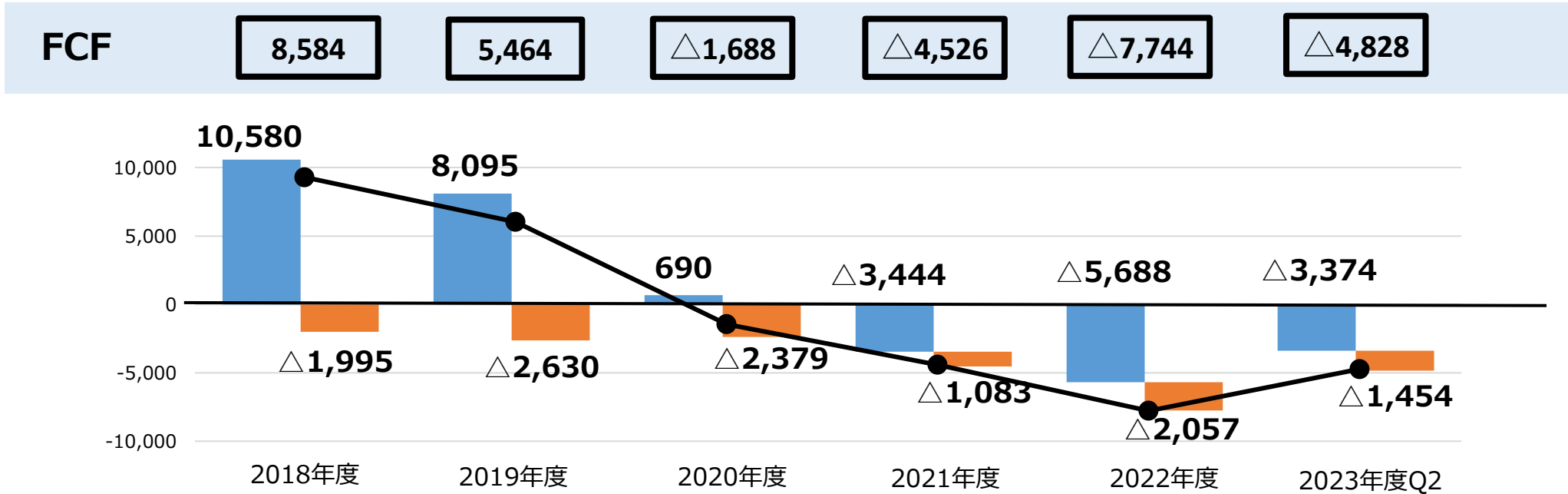


## FCF(フリーキャッシュフロー)の推移

大型案件の受注増や生産能力増強に向けた設備投資増により、連結FCFはマイナスで推移



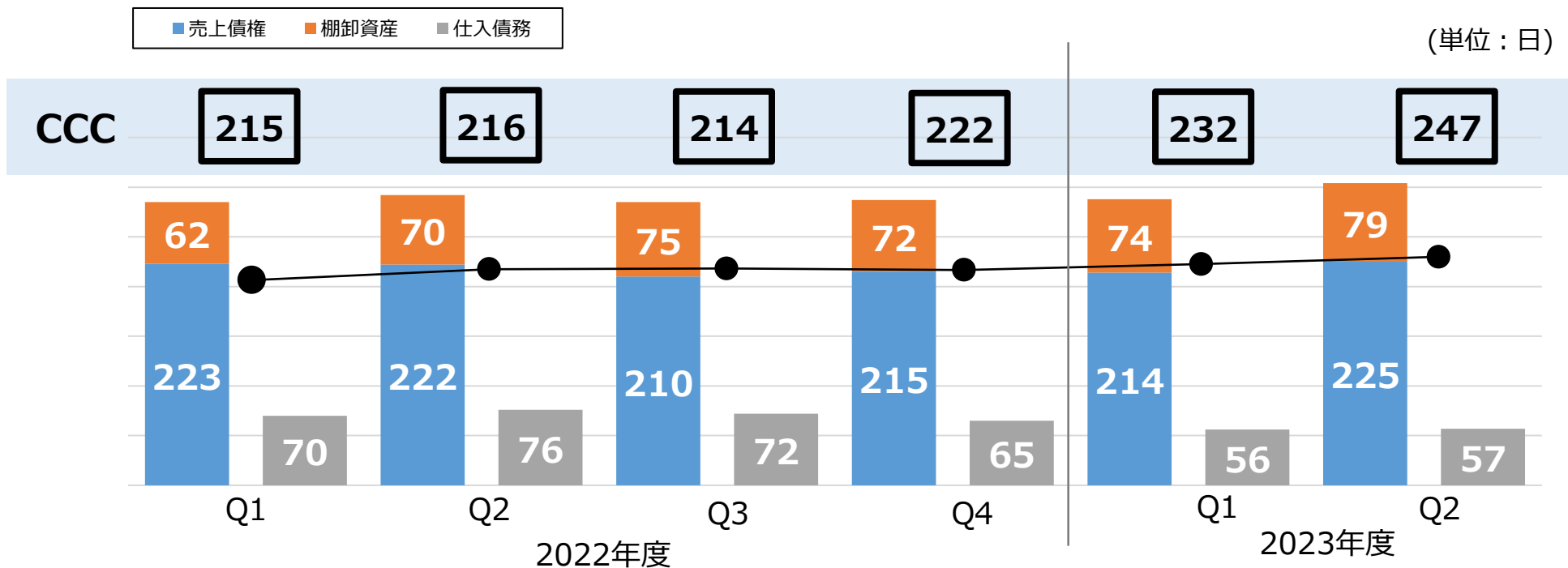
(単位：百万円)



＜対応策＞  
 ・売上債権早期回収に向けたリードタイムの短縮や大型案件や長納期案件での前受金の設定・増額、顧客との交渉を継続して実施

## CCC(キャッシュコンバージョンサイクル)の推移

大型案件の受注増による売上債権増や一部案件での生産遅延で売上債権・棚卸資産回転日数が増加したことにより、対前年同期でCCCは悪化



- ＜対応策＞
- ・売上債権早期回収に向けたリードタイムの短縮や大型案件や長納期案件での前受金の設定・増額、顧客との交渉を継続して実施
  - ・調達リードタイムの改善に努めるとともに在庫削減を推進

## 想定される主な外部環境起因の機会／リスクと対応策

想定される主な外部環境 (2023年度)	想定する機会／リスク	主な対応策
各国の脱炭素・カーボンニュートラルへの取り組み強化	<b>【機会】</b> EV・半導体関連の需要増 <b>【リスク】</b> GHG排出量削減に向けた対応（コスト増） 生産能力・人的リソース不足による受注取りこぼし	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存顧客からの継続的な引合い獲得に向けたQCD向上</li> <li>EV・半導体を成長分野と位置づけリソース集中 = 受注拡大を見据えた人材・生産能力への先行投資（人員増、関西工場建替・七城工場増築など）</li> <li>GHG排出量削減目標の設定と最適な目標達成施策の検討</li> </ul>
米国のIRA（インフレ抑制法）施行 → 北米のEV市場が活性化	<b>【機会】</b> EV・半導体関連の需要増 <b>【リスク】</b> 生産能力・人的リソース不足による受注取りこぼし	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存顧客からの継続的な引合い獲得に向けたQCD向上</li> <li>EV・半導体を成長分野と位置づけリソース集中 = 受注拡大を見据えた人材・生産能力への先行投資（人員増、関西工場建替・七城工場増築など）</li> </ul>
米国の金利上昇と円安の進展	<b>【機会】</b> 円安による海外競合との相対的な価格競争力増 <b>【リスク】</b> 円安による海外調達品(原材料・部材)の調達コスト増	<ul style="list-style-type: none"> <li>原材料価格上昇分の見積もり反映と価格改定による利益確保</li> <li>標準化、DX化推進、新規調達先開拓などによる継続したコスト削減</li> </ul>
バッテリー分野での新方式の量産化	<b>【機会】</b> 新技術追従と量産対応による商機拡大 <b>【リスク】</b> 開発要素負担による収益性悪化	<ul style="list-style-type: none"> <li>顧客の研究開発段階から参画し、顧客要求に即した製品の開発・提案</li> <li>外部調達による開発費削減</li> </ul>
原材料費・部材価格の高騰	<b>【リスク】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>価格反映できないことによる利益率悪化</li> <li>価格反映（販売価格アップ）による競争力低下</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調達価格上昇分の見積もり反映や価格改定（全社施策としてすべてのお客様に要請）</li> <li>高付加価値製品の開発・上市</li> <li>新規調達先の開拓</li> <li>設計変更による標準化推進</li> </ul>
調達部材不足	<b>【リスク】</b> 生産スケジュールの遅延や生産リードタイムの長期化による売上減や原価率悪化、棚卸資産増	<ul style="list-style-type: none"> <li>標準化による必要部材点数削減</li> <li>先行手配による部品在庫確保</li> <li>新規調達先の開拓</li> <li>設計変更による標準化推進</li> </ul>

## ESG経営の取り組み強化

### ● 「国連グローバル・コンパクト」署名

#### <国連グローバル・コンパクト(UNGC)とは>

- ・ UNGCは、2000年7月に国連本部で発足した国際イニシアチブで、「環境の保護」や「社会的差別の解消」等の社会的課題の解決に向け、企業の主体的・自発的な取り組みを促すことを目的とする
- ・ 当社は「国連グローバル・コンパクト(UNGC)」に署名し、9月10日付で参加企業として登録された



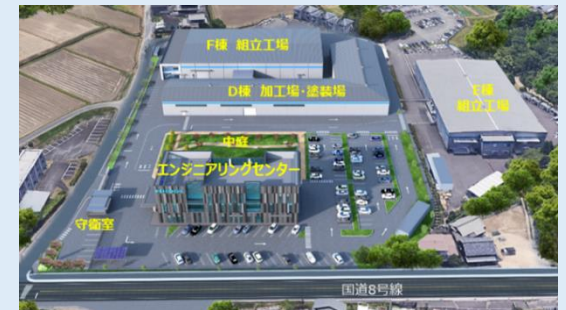
### ● 経団連「企業行動憲章」への賛同表明

- ・ 当社は、代表取締役社長を委員長とする全社委員会「サステナビリティ推進委員会」を立ち上げ、経営上の重要課題（マテリアリティ）ごとに5つのテーマを設定し、活動を推進
- ・ 今般、その取り組みのさらなる強化・充実を図るため、経団連の「企業行動憲章」への賛同を表明し、新たに制定する当社「行動規範」（仮称）をはじめ、ESGに関する諸施策にその理念を積極的に反映

### トピックス：生産スペース拡大計画の進捗

#### ● 関西工場 本格稼働開始

- ・ 2021年より段階的に行ってきた関西工場(滋賀県野洲市)のリニューアル工事(建替工事)が2023年10月をもって完了し本格稼働開始
- ・ **2,800㎡の組立建屋やエンジニアリングセンターを新設**し、既存建屋内の機械設備のレイアウトを見直すことで調達から機械加工・塗装・組立までの工程で生産の流れを整流化。一貫したものづくりができる体制を構築したことでさらなる生産性向上を図る
- ・ 関西工場では主に、自動車関連のIGBT・インバーター等の組立設備や家電メーカー向けの組立設備を製造



関西工場  
敷地全体図

#### ● 七城工場 増設部分の稼働前倒し

- ・ 七城工場(熊本県菊池市)増設は、当初予定(2024年6月の稼働開始)を**前倒しし、2024年4月稼働開始を予定**。2024年2月ごろには、完成した一部スペースにおいて先行稼働を開始予定

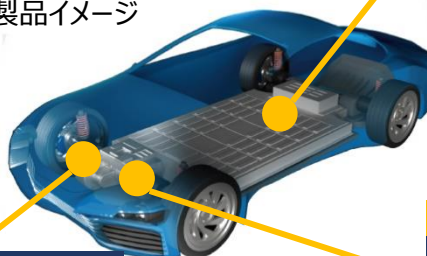
## 事業概要：自動車関連の主要製品

✓ EV関連を中心に、北米自動車メーカー(ビッグスリー)・北米新興EVメーカー・国内電子部品メーカーから継続受注

### EV関連の主力・拡大分野

<当社が手掛ける生産設備>

※完成製品イメージ




**拡大分野**

バッテリー関連組立設備  
(セル充放電工程)



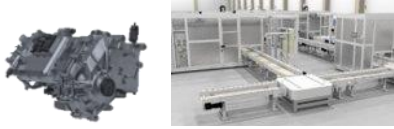
**主力分野**

IGBT・インバーター  
組立設備



**主力分野**

EDU組立設備



### 主力分野

#### EDU組立設備

EDU (Electric Drive Unit) と呼ばれる車載用のモーターとギアボックスを組み合わせた、EVの駆動用部品の組立設備を製造

### 主力分野

#### IGBT・インバーター組立設備

IGBTやインバーターといった、EVやトランスミッション車に搭載される車載用電子部品の組立設備を製造

### 拡大分野

#### バッテリー関連組立設備 (セル充放電工程)

バッテリーのセル工程の一部である充放電工程の搬送設備を製造  
現在、当該工程のキーデバイスである充放電機の開発を推進

## 主要な地域・顧客・優位性

主要分野	地域	顧客	当社の競争優位性
EDU組立設備	北米	・北米自動車メーカー(ビッグスリー) ・北米新興EVメーカー	<b>【セグメント共通】</b> ○開発から生産・保守までの一貫体制 ○顧客要求に応えるエンジニアリング力 ○顧客からの信頼と継続取引  <b>【セグメント独自】</b> ●長いもので総延長1kmを超える大型設備を自社のみで手掛ける対応力 ●生産ラインを丸ごと検証できる広大な工場
IGBT・インバーター組立設備	日本	国内車載用電子部品メーカー	
バッテリー関連組立設備 (充放電工程)	日本	国内バッテリーメーカー	

## 事業概要：半導体関連の主要製品

✓ 国内製造装置メーカー向けのウェーハ搬送装置や検査装置間のハンドリング装置を中心に継続受注

### 半導体関連の主力・拡大分野

#### 主力分野

#### ウェーハ搬送装置



シリコンウェーハを各種処理装置に取り込むロードポート、大気・真空環境に対応可能なウェーハ搬送ロボットおよびそれらを統合したEFEMを製造

<主な取引プロセス>



#### 主力分野

#### 検査装置間の搬送装置

完成したICチップを検査装置や別のトレイに運搬・移載するハンドリング装置などを製造

<主な取引プロセス>



#### 拡大分野

#### PLP搬送装置



PLP工程等に使用される、パネル基盤搬送用のEFEM・ロードポート・ウェーハ搬送ロボットやパネル製造用の搬送設備を製造

<主な取引プロセス>



### 主要な地域・顧客・優位性

主要分野	地域	顧客	当社の競争優位性
ウェーハ搬送装置	日本	国内製造装置メーカー	<b>【セグメント共通】</b> ○開発から生産・保守までの一貫体制 ○顧客要求に応えるエンジニアリング力 ○顧客からの信頼と継続取引  <b>【セグメント独自】</b> ●豊富なコンポーネントのラインナップ ●顧客の要望に合わせたカスタマイズ・最適化に必要な知見技術
検査装置間の搬送装置	北米・日本	・北米デバイスメーカー ・国内検査装置メーカー	
PLP搬送装置	北米・欧州・日本	・北米デバイスメーカー ・国内/欧州基板製造メーカー	

## 事業概要：その他自動省力機器

✓ 有機ELの蒸着装置や家電メーカー向けの組立設備、医療理化学機器などさまざまな産業分野向け製品を製造

### その他自動省力機器の主力・新規分野

#### 主力分野

**有機EL用蒸着装置**

有機ELパネル用の真空蒸着装置の製造を受託

#### 主力分野

**家電メーカー向け組立設備**

高性能家電に組み込まれるモーターの組立設備をはじめあらゆる設備・装置を製造

#### 主力分野

**医療理化学機器**

検体検査用の装置(病理組織標本作製装置や全自動連続薄切装置)を製造

#### 収益化に向けた新規分野

**集束超音波治療装置**

- ・すい臓がんを対象にした集束超音波利用装置をソニア・セラピューティクス社(本社:東京都新宿区、以下ソニア社)と共同開発中
- ・ソニア社の集束超音波技術と当社ロボット技術を融合させ、患者にやさしい非侵襲的ながん治療を目指す
- ・人での臨床試験がスタートし、次なる量産用装置の開発に着手した

### 主要な地域・顧客・優位性

主要分野	地域	顧客	当社の競争優位性
有機EL用蒸着装置	日本	国内製造装置メーカー	<b>【セグメント共通】</b> ○開発から生産・保守までの一貫体制 ○顧客要求に応えるエンジニアリング力 ○顧客からの信頼と継続取引  <b>【セグメント独自】</b> ●あらゆる分野の生産設備・装置に携わってきた豊富な知見とノウハウ
家電メーカー向け組立設備	アジア	アジア家電製造メーカー	
医療・理化学機器	日本	国内医療専門メーカー	



## ご注意

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、経済動向、他社との競争状況、為替レートなど潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化などのさまざまな要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。